

## 甲藤好郎先生のご逝去を悼む

*Mourn for the Loss of Prof. Yoshiro Katto*

西川 兼康 (九州大学名誉教授)

*Kaneyasu NISHIKAWA (Professor Emeritus, Kyushu University)*

平成 17 年 1 月 22 日九州大学増岡隆士教授より甲藤好郎先生が昨日御逝去になったという電話があった時は、あまり急なことで信じられない思いでした。私こと、5 年程前から座骨神経痛で歩行困難になり、先生にお会いしたのは、6 年前機械学会の研究分科会に出席した折、たまたま甲藤先生が機械学会に何かの調査にこられて、事務局長が連絡してくれて会長室でお会いしたのが最後でした。その後多少老化現象が進んでいるが、ご元気だと承っていたので、ご元気だと思っていたのに、誠に哀悼の情に堪えません。

私が最初に甲藤先生にお会いしたのは、戦後数年経った後で、東京大学の橘藤雄先生の紹介であったように思う。その後私の直接の恩師である九州大学の山県 清先生が傳熱の講習会を九州でやるということ、東京より橘先生と甲藤先生を呼び、後は九大の連中で受け持つことで計画をたてた。この講習会は傳熱の講習会としては日本で最初のものであり、この講習会により、甲藤先生と私との交流が頻繁になったように思われる。

日本における伝熱学のはしりは、1931 年岩波書店より発行された北海道大学大賀恵二教授の著書「傳熱諸論と其適用」であろう。研究面では東北大学抜山四郎教授が 1934 年に日本機械学会で発表された有名な「沸騰特性曲線」の研究は日本の傳熱研究の黎明とすることができよう。少し遅れて九州大学の山県清教授は、非等温管内層流理論、自由対流の研究などを発表しているが、「管内層流の理論解析(1940)」は Eckert の著書「Wärme- und Stoffaustausch (1949)」に引用されている。山県清教授は 1937 年より「応用熱学」という課目名のもとに日本で最初に傳熱学を開講されている。また京都大学の菅原菅雄教授が 1952 年機械学会で日本で最初に傳熱に関する展望講演を行っている。これら日本の伝熱学の先達につづいて伝熱の本格的な研究の推進をされたのは日本大学栗野誠一教授と東京大学橘藤雄教授であろう。日本機械学会ではじめて「熱に関する講演会」が 1953 年東京の日本交通協会の講堂で開催されたのも上記二先輩の尽力によるものであり、この熱に関する講演会はその後毎年開催され、抜山四郎先生、菅原菅雄先

生、山県清先生、谷下市松先生、川下研介先生、西脇仁一先生、栗野誠一先生、橘藤雄先生などの熱の大家が前方に陣取って出席され、厳しい質問がなされるので、若手の研究者は熱の講演会で発表するとなると、非常に緊張し自力を精一杯ふりしぼって発表するという雰囲気であった。しかしこのような大家の先生方から直接批判をうけるといことが日本の伝熱研究を刺激し、その後この熱に関する講演会が日本伝熱研究会発足の足掛かりとなった。

伝熱研究会の発足にあたっては、東京大学の橘藤雄教授の呼び掛けで始まったように思う。昭和 35 年頃東北大学抜山教授、京都大学菅原教授、九州大学山県教授、東京大学橘教授、日本大学栗野教授、京都大学水科教授、京都大学佐藤教授、甲藤航空技術研究所室長それに小生も加わって相談したように思う。そこで日本伝熱研究会を発足するが、本部を中央におくことをせず、中央は連絡の事務的なものとし、各地方の活動を重視し、各研究グループとして独自の活動をし、シンポジウムを年一回開催することにした。

その後日本の伝熱研究を支えたのは京都大学水科篤郎教授、京都大学佐藤俊教授、九州大学西川兼康教授、東工大森康夫教授、東京大学甲藤好郎教授の五人であり、活発な議論によって日本の傳熱学の学問の進展と活発化に貢献したように思われる。この中で甲藤先生は最年少であるが、厳しい独自の見解をもつ気鋭の方々の意見を纏められたのは、甲藤先生だったように思います。

甲藤先生の学問的業績は機械工学の広い分野にわたっているが、沸騰熱伝達における限界熱流束の統一の整理(1969)は日本の傳熱研究を世界的レベルに引き上げるのに大きく貢献した。

先生はまた、日本学術会議の伝熱研究連絡委員会(昭和 41 年)、第 5 回国際伝熱会議(昭和 49 年)、1983 年 ASME-JSME 熱工学会議(ハワイ)、1985 年日中米シンポジウム(北京)、文部省のエネルギー特別研究「熱エネルギーの有効利用」(昭和 53 年)研究プロジェクトなどの委員会では、小生等とともに委員を務められ、また「International Journal of Heat and Mass Transfer」の Honorary Editorial

追悼

Advisory Board(1974)も務められ、日本伝熱研究会の発展に貢献された。

いま先生を失うことは日本の伝熱界にとって大きな損失であり、もっと長生きして活躍して頂き

たかったという思いが切実に感じられます。ここに先生が伝熱界に残された顕著な業績を銘記するとともに、心からご冥福をお祈り致します。



甲藤好郎先生 (1924-2005)

ご経歴：

大正 13 年 9 月 3 日 奈良県生まれ  
第一中学校、第一高等学校を卒業の後、  
昭和 21 年 東京帝国大学第一工学部機械工学卒業  
昭和 22 年 東京大学理工学研究所  
昭和 24 年 東京大学助手  
昭和 31 年 東京大学航空技術研究所  
気体軸受け、サージング等研究  
昭和 37 年 東京大学工学部助教授  
昭和 38 年 東京大学工学部教授  
昭和 60 年 東京大学ご退官、名誉教授  
昭和 60 年 日本大学理工学部教授  
平成 6 年 日本大学ご退官  
平成 17 年 1 月 21 日 ご逝去  
この間、伝熱工学、熱工学の研究。東京都科学技術功労賞（昭和 58 年）、  
谷川熱技術振興基金熱技術賞（平成 3 年）、紫綬褒章（平成 4 年）、  
勲 3 等旭日中綬章（平成 9 年）等を受賞。